Faculty of Informatics, Shizuoka University Newsletter, vol.10, April, 2013

Joy風 vol. 10

April 2013
静岡大学情報学部
http://www.inf.shizuoka.ac.jp

ごあいさつ

情報学研究科長・学部長
西原 純

春爛漫の頃となり、キャンパスでは新入生を迎え活気が戻ってきました。新入生の保護者の皆様、おめでとうございます。在学生の保護者の皆様、普段より情報学部へのご理解とご協力を頂き、御礼を申し上げます。教職員一同、初心に立ち返り教育研究に励む所存ですので、どうぞ宜しくお願い申しあげます。

静岡大学および情報学部は、運営費交付金・人件費の削減とともに、国立大学のミッションの再定義作業、静岡大学組織改革計画の検討など大きな難題を抱えています。また新年度から静岡大学は、理系4学部の教員が大学院研究科修士課程を本務とするという組織改変を行いました。情報学部教員も情報学研究科所属となりましたが、学部教育・運営は全くこれまで通り行いますので、ご安心下さい。

さてこのたび、情報学研究科長・学部長に就任しました西原純と申します。少しだけ自己紹介をさせて下さい。私は鳥取県の出身で、年に一度の浜松鳥取県人会に出席するのを楽しみにしています。同じ日本三大砂丘でも、浜松の中田島砂丘よりも鳥取砂丘がはるかに大きいと思い、晴天が続く浜松の天候よりも雪と曇天の鳥取の冬の天候を懐かしく思っています。

元々、私は生まれ育った砂丘開拓の研究がしたくて大学で地理学を志しました。しかし田舎者の都会へのあこがれからか、卒業研究以来、私は都市地理学という研究分野を選んでしまいました。

前任の長崎大学では、日本全体をターゲットして企業組織からみた都市網の形成や就業者の所得格差（職業間格差・地域間格差）を、コンピュータと巨大データを活用して研究していました。と同時に、三菱高島炭鉱という一つの地域社会をターゲットして炭鉱閉山による地域社会の変貌過程を、地元住民の人々に密着して学生諸君と共にインタビュー・アンケート調査などを行いました。高島の人々が経験した困難を世の中の人々に伝えなければと思いました。

現在、私は情報学の視点から平成の市町村合併やまちづくり・地域活性化政策を研究しています。ここでも私は、学生諸君の助けを借りながら、巨大データを分析すると同時に、地域住民の多くの生の声を集めて研究を進めています。

大学教員になって三十三年間が経ちましたが、学生諸君がこれらの研究での経験を糧にして、卒業後もさまざまな分野で活躍していることが私の何よりの喜びです。

写真説明：静岡県清水港見学

楽しいセキュリティ

池谷 勇樹

昨年十一月、コンピュータセキュリティの学会が島根県で開催されました。そこで私は初めての学会発表を経験しました。発表内容はCAPTCHAについてです。

CAPTCHAとは、自動プログラム（マルウェア＝悪さを働く自動プログラム）による不正なWebサービスの利用を防ぐための技術です。たとえば、Webサービスのアカウントを作成する時や、ブログ・Wikiに書き込みをする時などに、読みにくい数字や文字の画像を目にした人も多いと思いますが、それがCAPTCHAの一種です。正しく文字が読めたユーザを人間と判断して、サービスの提供を行います。しかし、近年はマルウェアの技術が上がってきていて、安全性を確保するためにCAPTCHAが人間にとっても読み取りにくいものになってしまっています。

そのため、私は、より安全で、面倒ではない、むしろ楽しいCAPTCHAについての研究を行なっています。いつか私が考えたCAPTCHAが実用化され、みなさんが目にすることがあるかもしれませんが、その時はよろしくお願いします。

（本学大学院進学）

情報学は面白い

江口 あい

私は、映像制作の仕事に憧れ、情報の特性や映像メディアについて学びたいと思い、情報学部に入学しました。

今思うと、入学当初の私は「情報」に対し極めて狭い視野で理解していたと感じます。情報学部で分野をこえた授業を受講し、また、様々な先生や学生と議論する機会を積極的に作る中で、情報学が持つ面白さや奥深さ、新たな可能性に気づかされました。

研究室に配属され博物館の展示解説にICTを導入する研究を進めるようになると、ますます現場を大事にしたいという思いが強くなり、「情報技術を用いて作ったモノを社会に役立てたい」と考えるようになりました。博物館の学芸員、ボランティアスタッフ、ベンチャー企業、来館者など多様な人々と出会い、関わり合うなかで、情報技術をきっかけに人と人を繋ぐ結果となり、満足のいく成果を数多く残すことができました。

情報学はどの分野とも結びつく可能性があるので、一人でも多くの人が新しい発見を楽しんで欲しいと思います。

（自動車関連企業就職）

色鮮やかな4年間

荻原 麻里

私の大学生活4年間の大半を占める思い出はサークル活動です。私は「浜松学生連 鰻陀羅（まんだら）」というよさこいサークルに所属していました。よさこいとは、高知発祥の演舞です。自分たちで演舞テーマ、曲の構成、衣装案の作成、振り付けを一から考え、その年のチーム演舞を完成させます。よさこいはもちろん、踊るということに今まで関わってこなかった私は、新しいことに挑戦する楽しみを感じることができました。メンバー数50人を超えるこのサークルで副代表をつとめた経験は、これからも私の強みになっていくと思います。

私は今年の4月から社会人になります。地元である愛知、4年間学んだ静岡から離れ、埼玉の企業で働くことになりました。新しい土地、新しい環境に一人で踏み出していくことに不安はありますが、今はわくわく感の方が勝っています。それは、この4年間で知識を基礎から学び、悔いのない学生生活をおくることができたからだと思っています。

（印刷機開発企業就職）

より本物に近い 3次元物体の生成

畑 裕介

私は3次元物体とカラー画像の対応付けの方法を研究しました。3次元物体は物体の奥行き情報も持ったデータです。しかし、通常、3次元物体は色彩情報を持っていません。そこでカラー画像をテクスチャとして3次元物体に貼り付ける方法があります。この方法を行なうには3次元物体とカラー画像の2つのデータ間で正確な対応付けを行なう必要があります。しかし従来の方法はどの視点から撮影されたカラー画像であるか分かっているという前提で行なわれていました。そこで私はどの視点からカラー画像が撮影されたか分からなくても対応付けを行なう方法を提案しました。3次元物体を回転させながら、ある面に投影させ、投影画像を生成し、カラー画像との一致度で視点を類推します。この方法により、視点が分からなくても、3次元物体とカラー画像の対応付けを行なうことができるようになりました。

将来は、この技術をCGに活かして、より本物に近い3次元画像を作りたいと思います。

（本学大学院進学）

貴重で充実した4年間

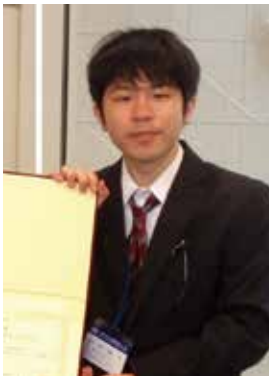
ピョー イン ウィン

私はミャンマーからの留学生です。入学したばかりの時は大学の授業についていけるのか、友達ができるのか等色々な不安がありました。しかし、入学してみたら、授業中のプロジェクトでチームワークを通して多くの友達ができ、授業中にわからないことがあったとしても、静大では気軽に聞ける先生が多くいらっしゃるので、安心して学習することができました。

学部2年次に情報システム[IS]コースに所属し、現代の組織や個人が求めるサービスやインタフェースの知識と情報技術の基礎を学びました。

4年生では、その知識を用いて留学生の日本語学習を支援できるように例文による学習方法を提案し、単語の意味を例文と関連づけて学習できるような学習補助サイトを作成して、評価実験と実験結果について考察を行いました。京都大学に進学しますが、静岡大学で学んだ情報に関する知識を生かして、ミャンマーと日本の情報社会に関する研究に取り組みたいです。

（京都大学大学院進学）



アルゴリズムコンテストに参加して

藤井 聡

４年間の大学生活は、新しい友達と出会い、新しい知識を身につけることができ、非常に充実したものでした。中でも印象に残っているのが、画像処理関連学会のアルゴリズムコンテストで優秀賞を受賞したことです。このコンテストには、私が所属している中谷研究室の同期と参加しました。

「はね」、「はらい」という漢字の部品をもとに誰が書いた漢字であるかを当てる筆跡鑑定が課題内容で、アルゴリズム性能と処理時間によって評価されました。私たちのチームは、処理時間を削減するために漢字の特徴となる部分を抽出し、その範囲に限定して探索を行う手法をとりました。審査員の先生方からは、「丁寧なアルゴリズム設計であり、非常に有効かつ汎用性の高い手法である」との講評をいただきました。意見を出し合いながら、プログラムを設計するのは大変でしたが、質の高いものを完成させることができ、良い経験になりました。

私は大学院に進学するので、コンテストや卒業研究で得た経験・知識を生かして、これからも引き続き画像処理の勉強・研究に取り組んでいきたいと思います。

（本学大学院進学）

成長できた４年間

藤沢 知佳

学校生活も私生活も、毎日が充実した４年間でした。講義だけでなく、サークル活動やボランティア活動、アルバイトや資格の取得など、忙しいながらも楽しい日々を過ごし、その中で成長することができました。

大学の講義はとても興味深いものが多く、卒業単位を超えて受講しました。実践的なグループワークが多かったので、大変なこともありましたが、その分、成長することができたと思います。

卒業研究では、アニメーション作家・映画監督である新海誠を扱いました。大学に入学する以前から研究したいと考えていたテーマでしたので、卒業論文として形にすることができて嬉しいです。学生の主体性を尊重してくれる環境にいることができたことは、とてもありがたいことだと感じています。

就職活動は、活動当初は順調ではありませんでしたが、共に励まし合える仲間のおかげで、なんとか乗り切ることができました。インターネット系の会社に就職します。大学で学んだことを活かして地域に貢献していきたいと思っています。

（インターネット関連企業就職）

人工知能を学んだ４年間

藤田 真浩

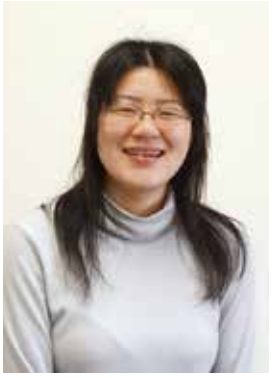
「コンピュータを勉強して社会の役に立ちたい」。今思うと的外れで恥ずかしい言葉ですが、私が中学校の卒業文集で書いた内容です。その時から7年。情報学研究科への進学も決まっており、当時から興味があった情報科学という分野を勉強できていることは幸せに感じています。

情報学部では情報科学を中心に勉強しましたが、竹林研究室に配属されてからの1年半は、人工知能に関わる学会発表、外部との共同研究、海外の大学への訪問等、４年間の中でも密度が濃い毎日でした。

特に研究活動では単なる座学と異なり、他の人が決めた模範解答がないため、何をするか、どう実現するかに悩み、必死に考えました。その過程で、自分でテーマを模索し、試行錯誤しながら成果を創りあげるという研究の楽しさに気づくことができました。その結果、今では、研究職に就きたいという将来の希望を持っています。

その希望に向かって今後も勉学に励みたいと思います。

（本学大学院進学）



大学生活で身についたこと

牧野 佳苗

高校卒業までとは大きく異なった環境の中で、単に学問を修めるだけでなく、周りと協力することや異なる考えを受け入れて積極的に動くことを学んだ大学生生活でした。

学部や部活で知り合った友人とは、趣味が近い仲間として仲良くなることができました。研究内容などの専門的な話から遊びの相談まで、幅広いことについて思うままに語り、計画を立てて一緒に出かけるのはとても楽しい経験でした。チームで取り組む課題では、お互いの状況を報告し合いながら課題を進めることで、協力の難しさと大切さを学ぶことができました。

ボランティアやアルバイトもたくさん経験しました。普段接することの少ない年上の方とお話しする機会がありました。初めは度胸が足りないこともありましたが、そのうちに新しいことにも積極的に挑戦できるようになりました。また、知り合った人たちの経験に基づいて語られる話から、新しい価値観を学ぶことができました。

（SE関係企業就職）

大学生活を通して

山本 頼弥

大学生活の４年間は、自分がやりたいこと、学びたいことが思い切りできた日々でした。特に、３年次での実験でCPUとコンパイラを実装したことや、卒業研究で苦労しながらも自分で考えたシステムを構築したことが印象に残っています。

卒業研究ではプログラミング学習支援システムについて考究しました。その中でも特に、「コーディング支援システム」の構築をしていました。どうして初学者がアルゴリズム学習で苦労するのか、どのようにしたらそれを支援できるのかなど、答えがないことに対して自分自身で考えることは大変でした。しかしながら、システムが完成し、実際に利用してもらったときの喜びは格別でした。

私はこの春から大学院の修士課程に進学し、研究を続けます。２年後、就職をするか、博士課程に進学するかはこれから考えていきます。どの道へ進むにしても大学で培った知識や技術を用いて社会を豊かにできる人材になりたいと考えています。

（本学大学院進学）

2012年度の情報学部・情報学研究科の就職・進学状況

情報学部は設立以来、就職支援活動に特に力を入れて来ており、IT 関連職への強いニーズもあって、高い就職内定率を維持して来ましたが、2012 年度も３月 14 日現在で、表のように学部 92.4%、研究科 98.1% の内定率となっています。昨年度末と比べて少し下がっていますが、情報科学科では昨年度を上回っています。進学率は情報科学科 44.6%、情報社会学科 4.7% と昨年より少し下がっています。

キャリア支援室（中谷・藤井）

2012年度の情報学部・情報学研究科の進路状況

学部／研究科	学　科　等	卒業予定者数	就職希望者数	内定者数	大学院進学者数	内定率	進学率	昨年度内定率	昨年度進学率
情報学部	情報科学科	92	46	44	41	95.7%	44.6%	95.1%	51.9%
	情報社会学科	107	99	90	5	90.9%	4.7%	95.4%	6.9%
	計	199	145	134	46	92.4%	23.1%	95.1%	26.9%
情報学研究科		54	52	51	1	98.1%	1.9%	100.0%	3.4%

2009～2011年度の主な就職先（含 大学院）

昨年度まで３年間の学部･研究科卒業生の主な就職先は左記の通りです。情報科学科では、大手情報通信産業や製造業が多く、情報社会学科では、公務員、金融保険業、情報通信業などが多くなっています。

情報学部では、１年次の新入生セミナーでキャリア形成教育を全員に行うほか、３年次でのインターンシップや就活ガイダンス、数度の合同企業説明会に加え、推薦応募、自由応募とも綿密な面接指導を行って、学生が希望の職につけるよう支援をしています。

情報科学科

アイシン・エィ・ダブリュ
NEC
NTT
NTT ソフトウエア
オムロン
河合楽器製作所
京セラ
キヤノン
KDDI
JR 東日本
スズキ
セイコーエプソン
デンソー
東芝
日立製作所
富士通
本田技研
三菱電機
ヤマハ発動機
リコー　など

情報社会学科

静岡県庁
名古屋市役所
静岡市役所
浜松市役所
NEC
遠州鉄道
京セラ
JR 東海
JR 東日本
静岡銀行
スズキ
鈴与
日本生命
日本郵政
野村證券
野村総合研究所
日立ソリューションズ
ヤフー
楽天
ローランド　など

学生の表彰

【学長表彰】
藤田真浩

【学部長表彰】
荻原麻里・畑 裕介・藤井聡・藤沢知佳

【学位記受領代表】
（正）牧野佳苗（副）江口あい

【浜松工業会　学習奨励賞】
池谷勇樹・藤井聡・山本 頼弥
江口あい・ピョー イン ウィン

情報学部のウェブページをご覧ください。

情報学部では、保護者･受験生･社会人･一般･企業の皆様向けに学部のウェブページを公開しています。最新情報が掲載されていますので、どうぞご覧ください。

http://www.inf.shizuoka.ac.jp/

お問い合わせ

〒432-8011 浜松市中区城北3-5-1
静岡大学情報学部事務局
TEL：053-478-1501 FAX：053-478-1503
学務窓口 pr-gakumu@inf.shizuoka.ac.jp
広報窓口 prcom@ml.inf.shizuoka.ac.jp

平成25(2013)年度　行事予定表

2013年

4月 4日	入学式･保護者懇談会（新入生の保護者対象）
5日	ガイダンス（1･4年）
8日	ガイダンス（2･3年）
10日	前期授業開始
4月20･21日	新歓合宿（休暇村伊良湖）
7月27･28日	大学院入試
7月30日	前期試験期間（～8月5日）
8月 1日	TOEIC IPテスト（1年生）
8月 7日	夏季オープンキャンパス
8月 6日	夏季休業（～9月15日）
9月16日	集中講義（～9月30日）
10月 1日	後期授業開始
11月 9･10日	静大祭･テクノフェスタ（浜松）
11月 9日	保護者懇談会･個別面談
11月16･17日	静大祭（静岡）
12月22日	集中講義（～12月25日）
12月26日	冬季休業（～1月5日） シドニー大学短期集中コース

2014年

1月 6日	授業再開
2月 4日	後期試験期間（～2月10日）
3月22日	学位授与式･卒業祝賀会（浜松）
3月23日	学位授与式（静岡）
3月25日	春季休業（～3月31日）